

クリニックにおける慢性痛治療の実践と痛みセンターとの診療連携

分担研究者 中塚 映政 医療法人青洲会なかつか整形外科リハビリクリニック 院長

研究要旨

慢性疼痛患者に対して、医師・看護師・理学療法士、作業療法士、臨床心理士などが協同して、評価・治療を行う集学的診療の有効性は欧米を中心に数多く報告され、本邦でも痛みセンターを中心に治療が行われている。一方、クリニックにおいて、慢性疼痛患者に対して集学的診療を実践している施設は未だ少ない。このような現状を打破するために、我々は、従来の治療法では効果が認められなかった慢性疼痛患者に対し、痛み専門医・看護師・理学療法士による集学的診療を実践して、治療効果を得ることができた。さらに、大阪大学医学部附属病院の痛みセンターと協力して関西地域におけるクリニックと痛みセンターとの連携を推進している。

A．研究目的

慢性疼痛患者に対して、医師・看護師・理学療法士、作業療法士、臨床心理士などが協同して、評価・治療を行う集学的診療の有効性は欧米を中心に数多く報告され、本邦でも痛みセンターを中心に治療が行われている。一方で、クリニックにおいて、慢性疼痛患者に対して集学的診療を実践している施設は未だ少ない。このような現状を打破するために、我々は、従来の治療法では効果が認められなかった慢性疼痛患者に対し、痛み専門医・看護師・理学療法士によるプチ集学的診療を実践して、整形外科クリニックにおける集学的診療を確立する。さらに、大阪大学医学部附属病院の痛みセンターと協力して関西地域におけるクリニックと痛みセンターとの連携を推進することが本研究の目的である。

B．研究方法

痛み専門医・看護師・理学療法士は慢性疼痛に対する集学的診療に関する講習会や研究会に参加して治療方法を学ぶ。

従来の治療法では効果が認められなかった慢性疼痛患者に対し、過去の診療歴、現在の所見、身体機能、日常生活活動度を評価し、集学的診療を行う。当院における集学的診療の流れは、まず、痛み専門医、看護師、理学療法士による評価を行い、その

結果を協議し、治療方針を決定する。具体的な治療としては、投薬、運動療法、認知行動療法などがある。特に、小冊子を用いた患者教育、認知行動療法の要素を加味した「いきいきリハビリノート」を用いて運動を促進し、治療効果を検討する。

（倫理面への配慮）

本研究参加者へは十分な説明を行い、同意を得ている（愛知医科大学倫理委員会）。

C．研究結果

慢性疼痛患者に対する治療効果の判定については、疼痛強度はNumeric rating scale(NRS)、日常生活障害度はPain Disability Assessment Scale(PDS)、破局的思考はPain Catastrophizing Scaleを用いている。慢性疼痛患者6例において、集学的診療を行うことによってNRS、PDAS、PCSはいずれも改善した。

D．考察

本研究結果から、整形外科クリニックにおいて痛み専門医・看護師・理学療法士による集学的診療を行うことにより、治療効果が得られた。今後、整形外科クリニックにおいて治療効果が得られない症例について、大阪大学医学部附属病院などの痛みセンターと連携することによって治療効果が得られるかどうかを検討することが必要である。

E . 結論

整形外科クリニックにおいて慢性疼痛患者に対して集学的診療を行うことにより、治療効果が得られ、そのADLならびにQOLを改善することが明らかになった。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G . 研究発表

1.論文発表

- 1) Chen T, Taniguchi W, Chen QY, Tozaki-Saitoh H, Song Q, Liu RH, Koga K, Matsuda T, Kaito-Sugimura Y, Wang J, Li ZH, Lu YC, Inoue K, Tsuda M, Li YQ, Nakatsuka T, Zhuo M. Top-down descending facilitation of spinal sensory excitatory transmission from the anterior cingulate cortex. Nature Communication 2018;9(1):1886.

2.学会発表

- 1) 山中学, 松浦孝紀, 谷口亘, 曾根勝真弓, 西尾尚子, 中塚映政, Zhuo Min. カルシウム活性化アデニルシクラーゼ1はマウス島皮質におけるLTPに寄与する. PAIN RESEARCH 2017;32(2):139. 第39回日本疼痛学会. 2017.6, 神戸
- 2) 山中学, 谷口亘, 曾根勝真弓, 西尾尚子, 中塚映政. 島皮質におけるLTPメカニズム. 第15回整形外科痛みを語る会. 2017.7, 尼崎

H . 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

- 1.特許取得
なし
- 2.実用新案登録
なし
- 3.その他
なし